

日時：令和7年9月10日（水）13：30～

場所：東京都庁第一本庁舎 33階 特別会議室 N1

1 会議の設置目的等

2 手話言語通訳者の養成について

3 輸送・宿泊について

4 選手・関係者向けのサービスについて

5 その他

2 手話言語通訳者の養成について

東京2025デフリンピックでは、国際手話通訳者（ろう者）、日本手話言語通訳者とのペアによる協働で通訳を進めることとし、必要な人材の養成を進めてきた。

➤ 東京2025デフリンピックに向けた登録国際手話通訳者試験（2023年度～）

デフリンピック開催に向け、ICSDやその他国際機関など協議の場において必要となる国際手話通訳者を確保するため、国際大会又は国際会議での国際手話通訳経験者等を対象に登録試験を実施

➤ 東京2025デフリンピックに向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会

大会に必要な国際手話通訳人材のさらなる確保のため、デフリンピックに関する基礎知識、協働通訳・リレー通訳の理念の習得などを目的として実施（実技演習含む）

①2024年6月～11月、②2025年1月～3月（追加開催）

国際手話通訳者50時間、日本手話言語通訳者34時間履修



▲2024.11 合同研修会

➤ 国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会

世界手話言語通訳者協会 (WASLI)の協力のもと、協働通訳技術についてのさらなるスキルアップと、大会・競技専門用語の習得などを目的として実施

（2024年度養成研修会修了者等を対象）

6月 協働通訳研修、5月～8月 競技別研修

国際手話通訳者24時間、日本手話言語通訳者24時間履修



▲2025.6 世界手話言語通訳者協会 (WASLI)講師による講義

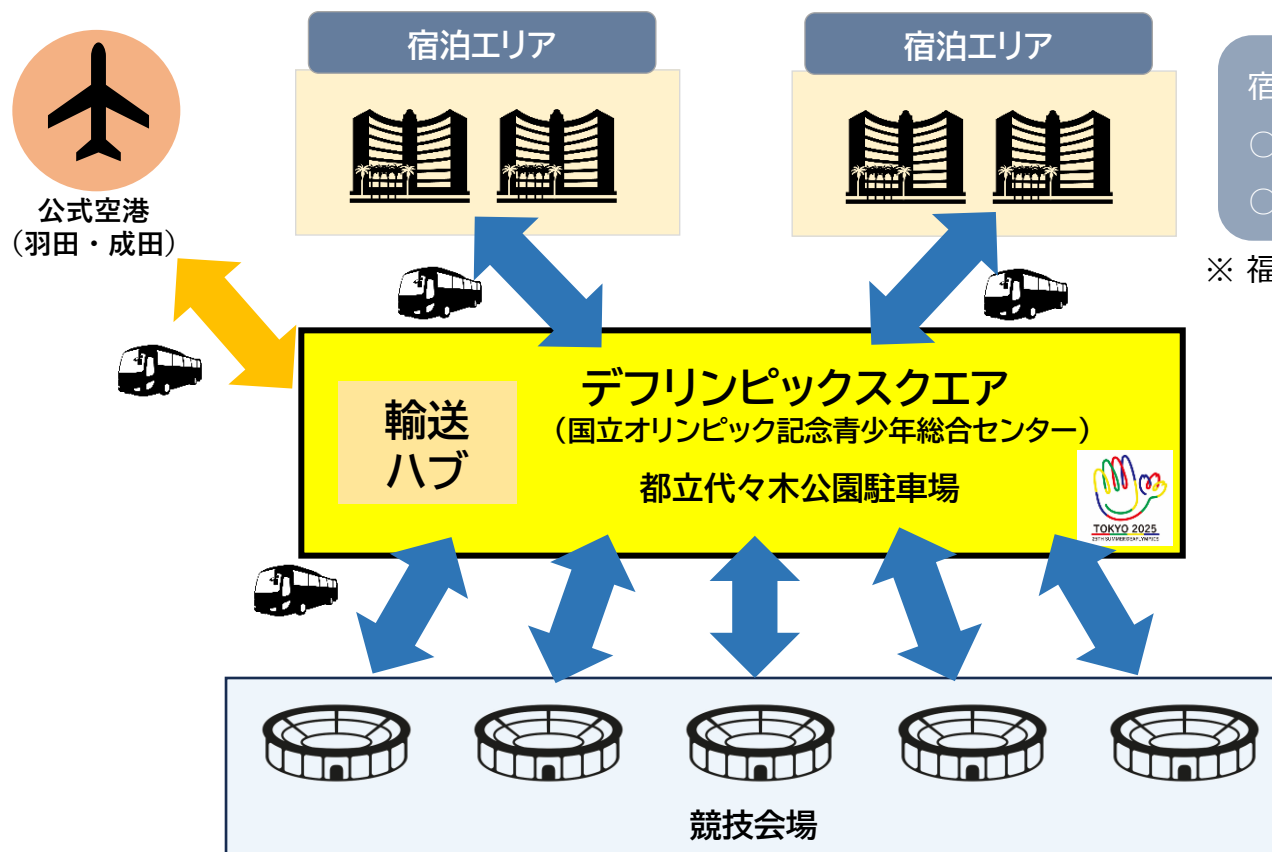


以上により養成した人材を大会の国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者として推薦

3 輸送・宿泊について

(1) 輸送・宿泊の概要

- 選手村は設置せず、選手は、**国ごとや競技ごとに宿泊施設に宿泊**
- 宿泊施設と競技会場間の輸送を効率化するため、**宿泊施設をエリアで集約**
- **デフリンピックスクエアを“輸送ハブ”**として活用し、競技会場への円滑な輸送を実現



宿泊エリア＜5エリア・全26施設＞

○新宿 ○渋谷 ○有明・台場
○池袋（射撃） ○府中・調布・立川

※ 福島、静岡、大島は現地で宿泊施設を確保
＜9施設＞



国立オリンピック記念
青少年総合センター

3 輸送・宿泊について

(2) 輸送について

- バスダイヤを工夫し、競技スケジュールにきめ細かく合わせて運行することで、**待ち時間を最小限**に
- 2020大会のような**専用レーンは設定せず**、通常の交通ルールにて輸送を実施するが、配宿の集約とハブの活用により、**概ね1時間程度**で宿泊施設から競技会場まで移動できるよう計画
- **臨海、多摩の宿泊エリアからは、直接、競技会場へも輸送**
- ➡ 様々な工夫により適切な輸送体制を構築し、**選手ファーストの輸送を実現**

(3) 宿泊について

- 宿泊費用は選手団が負担することから、東京大会では**早期に宿泊施設を確保することで価格を抑制し、全ての選手団の費用負担を軽減**
- 全宿泊施設を対象とした、ろう者への接遇やUC機器の導入促進に向けた研修会の実施など、選手団の受入れ準備を推進し、**競技に集中できる環境を整備**

4 選手・関係者向けのサービスについて

○ 東京ならではのきめ細やかな選手向けサービスを、協賛企業の協力も得ながら実現

- **日本到着時**の対応
- **宿泊施設**における対応
- **輸送時**の多様なニーズへの対応
- **会場**における選手団への軽食・補食の提供